

2. 社会教育系施設

(1) 図書館

ア 施設概要

図書、記録その他必要な資料を収集・整理・保存し、市民に情報提供するとともに、市民の学習活動を支援する拠点施設として「湯沢図書館」、「雄勝図書館」を設置しています。

このほか、稲川カルチャーセンター図書コーナーと皆瀬生涯学習センター図書室を設置しているほか、各小中学校に図書室を設置しています。

施設No.	施設名	所在地	地区	所管課
図1	湯沢図書館	字内館町27	湯沢	生涯学習課
図2	雄勝図書館	横堀字白銀町49-1	横堀	

イ 現状と課題

施設No.	施設名称	建築年	法定耐用年数	経過年数	延床面積(m ²)	運営形態	職員数	支出(千円)	収入(千円)	利用人数
図1	湯沢図書館	S57	50	37	1,710	直営管理	正3, 再2, 非3	26,264	23	55,600
図2	雄勝図書館	H8	50	23	481		正1, 非1	11,086	14	12,200

図1 湯沢図書館

鉄筋コンクリート造、地下1階、地上2階建て、延床面積1,710m²。昭和57年に新耐震基準で建設し、平成27年度屋上屋根防水シートの改修工事を行っていますが、建築から37年が経過し老朽化が進んでいます。土石流・急傾斜警戒区域に含まれています。

開館日・開館時間は、年末年始と月初めの平日、第3日曜日、祝日、振替休日、図書整理期間（毎年9月に10日程度）を除く毎日、平日が9時30分から18時30分まで、土・日曜日が9時から17時までで、管理運営は市直営で行い、人件費を含む管理運営は26,264千円となっています。利用者が使用するコピー代として23千円の収入があります。

施設は、1階は一般開架室、ホール、児童読書室、移動図書館車庫等、2階はホール機能、読書室、集会場、集会室、古文書室、郷土資料室、映写室、録音室、地下は書庫室で構成しています。

蔵書数はA・V・雑誌を含めて約124,600点（うち開架37,100点）、登録者数約5,200人（うち市民約5,000人、令和2年2月末現在）で、年間利用者数は約55,600人、貸出は約64,400冊となっています。また、毎月1回、ボランティアグループによるおはなし会（参加人数約100人）や、図書館クイズ検定（参加人数約70人）、図書館講座の開催（年3回、参加人数約90人）、夜の図書館「七夕おはなし会」（8月に1回、参加人数約30人）を開催しているほか、年間を通じ月替わりで一般、児童のミニ特集展示を行っています。

図2 雄勝図書館

雄勝文化会館の4階にあり、延床面積481m²（施設の構造等は雄勝文化会館を参照）。

開館日・開館時間は、年末年始と月曜日を除く毎日、9時～17時30分までで、管理運営は市直営で行い、人件費を含む管理運営費は11,086千円となっています。利用者が使用するコピー代として14千円の収入があります。

施設は、一般閲覧室、児童コーナー、書庫で構成しています。

蔵書数はA・V・雑誌を含めて約38,500点（うち開架約22,900点）、登録者数約1,300人（うち市

民約1,200人、令和2年2月末現在)で、年間の利用者数は約12,200人、貸出は約21,900冊となっています。また、毎月1回、ボランティアグループによるおはなし会や、お楽しみおはなし会(年2回)を行っています。

【現状と課題のまとめ】

図書館は、これまで資料の貸出を中心に運営してきましたが、近年は滞在型の利用者が増加している一方、インターネットでの検索や予約が可能となるなど在宅での利用環境の整備も進んでいます。

また、これからの時代における図書館の役割として、資料の提供に加え、自主的に地域課題の解決に取り組む市民の学習活動の支援や情報提供が求められています。

施設の面では、湯沢図書館は耐震基準を満たしているものの、建築後37年を経過し、施設・設備の老朽化が進んでいるほか、駐車場の不足、土石流・急傾斜警戒区域に含まれているなど、施設の設置場所を含めて、施設のあり方の検討が必要となっています。

雄勝図書館は、将来的には雄勝文化会館のあり方にあわせ、図書館のあり方の検討も必要になってきます。

両施設とも直営で管理運営しており、上記の市民ニーズや時代の要請に応えた図書館のあり方を検討する中で、効果的かつ効率的な管理運営手法についても検討が必要です。

ウ 今後の方針とスケジュール

公共施設等総合管理計画の今後の方向性に基づき、「施設の安全性」、「施設の必要性」、「施設の有効性」、「管理運営の効率性」の視点から検証し、分析・評価を行いました。また、分析・評価を踏まえて、施設の対応方針を定めました。これらの内容は次のとおりです。(分析・評価結果は資料編を参照)。

【基本的な考え方】

- 市民の学習の場、情報収集の拠点として、また、地域課題の解決に必要な調査研究資料を提供し、地域・市民の学習活動を支援するため、図書館機能の充実強化を図ります。
- 当面、市直営での管理運営を行います。行政の役割を明確にしたうえで、費用対効果を検証し、民間活力の活用を検討します。

【個別施設ごとの対応方針】

図1 湯沢図書館

- 昭和57年の建設で耐震基準を満たしているものの、老朽化が進んでいること、駐車場の狭隘なこと、土石流・急傾斜警戒区域に含まれていること、地域・市民のニーズに応える学習機能を持った施設との一体的な配置が望ましいことから、他の公共施設との複合化を図り、湯沢駅周辺の公共用地に移転・新築します。
- 整備にあたっては、施設の効果的かつ効率的な運営を図るため、民間活力を活用した管理運営方法を検討します。

図2 雄勝図書館

- 平成8年に建設した雄勝文化会館の複合施設であり、文化会館と同様に計画的な改修を行いますが、今後のあり方について検討します。
- 雄勝文化会館と一体的な管理運営方法について、民間活力の活用を含め、検討します。

【年度別スケジュール】

項目	2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度～2030年度 (R7)～(R12)
湯沢図書館	事業手法等の検討		----->			
	施設のあり方検討 反映		----->			
雄勝図書館	文化会館の検討に合わせ 今後のあり方、 管理運営手法の検討		----->			
			----->			

エ 概算事業費と効果額

単位：千円

施設 No.	施設名称	今後の 方向性		更新費用の試算（40年間：令和2～41年度）						維持管理費	
		建物	長寿 命化	現状維持した場合			本計画を実施した場合			単年度の比較	
				大規模改修	建替	合計	長寿命化等 大規模改修	建替	合計	現状維持	計画実施
図1	湯沢図書館	複合化	●	427,510	684,016	1,111,526	213,755	684,016	897,771	26,264	26,264
図2	雄勝図書館	継続		0	0	0	0	0	0	11,086	11,086
概算事業費（合計）				427,510	684,016	① 1,111,526	213,755	684,016	② 897,771	③ 37,350	④ 37,350

更新費用の試算比較 ②－①	単年度の維持管理費の比較 ④－③
△ 213,755 千円	0 千円

※ 更新費用は、本計画策定年度の令和2年度から起算して40年間に必要となる大規模改修費用及び建替費用の試算額です。

大規模改修費用：25万円/m²、更新（建替）費用：40万円/m²（総務省が提供する単価）

※ 維持管理費は、直近（平成30年度）の施設維持管理に係る年間の支出額です。

※ 端数処理の関係上、合計と一致しない場合があります。

※ 雄勝図書館の更新費用は、雄勝文化会館（文2）に一括計上しています。